

ニイガタの祭検定 事前勉強資料(大人クラス)

※子どもクラスについては、問題文を読むことで答えがわかるようになっていきますので、事前勉強資料はありません。

《新潟まつり》

開催地:新潟市

開催日:8月3日～11日の間の週末(金、土、日)開催

行事内容:1日目 大民謡流し・オープニングスターメイン

2日目 きらきらパレード、水上渡御、市民みこし、音楽付き花火ショー

3日目 大花火大会

行事詳細:1956年8月に、それまで別々に開催されていた「住吉祭」「川開き」「商工祭」「開港記念祭」が一本化されて、「新潟まつり」としてスタートしました。新潟まつりは1964年の新潟地震で中断しましたが1966年に復活。開催日を1982(昭和57)年上越新幹線開通を受けて、8月20日から23日までであったものを、7日から9日の3日間に改められました。また政令指定都市移行を受けて、2007(平成19)年から11日の間の週末(金、土、日)開催となりました。初日の夜は大民謡流し・オープニングスターメインで幕を開け、2日目は水上渡御や市民みこしなどの大パレード、音楽付き花火ショー、最終日の夜に「ナイアガラ花火」が見事な大花火大会でフィナーレを飾ります。



※にいがた観光ナビより

《蟹の手振り》

初代新潟奉行の川村修就は新潟の代表的な風物を描いた「蟹の手振り」という絵巻物を作らせています。この絵巻物には新潟まつりの「住吉祭」が湊祭と呼ばれていたころの行列の様子や「新潟湊祭の行列」のほか「新潟町の盆踊り」「海岸のイワシ網漁」など六つの風景が描かれています。

《新潟万代太鼓》

毎年八月に開催される新潟まつりには欠かせない勇壮な太鼓。加賀太鼓を手本に作られた。港の安全、五穀豊穡、郷土の発展を祈って創作されたもの。みなと太鼓・甚句ともえ打ち・おけさ揃い打ちなどがある。祭だけでなく色々なイベントで演奏されている。新潟を代表する太鼓です。

【新潟市内の祭】

《弥彦燈籠祭り》

開催地：弥彦村

開催日：毎年7月24日～26日

行事内容：民謡流し、子ども灯籠押し、大 lantern 巡業、奉祝花火大会

行事詳細：前夜祭には民謡流しの他、よさこいソーランなどの踊りや太鼓のステージイベント、祭当日は神事などの祭典が行なわれます。青年・こども灯籠押しでは元気な若者が祭の格好に身を包み、迫力ある灯籠押しがみえます。また古式ゆかしい衣装に身に包を包んだ子供が舞う秘伝の稚児舞も見どころ満載です。神様へ供物をお供えする大御膳献進や燈籠の巡行の経路をお祓いする、お櫛引きなど、たくさんの神事が執り行われます。花火大会や神輿渡御、村内一週駅伝大会もおこなわれ、松明をもって長い列をなす松明大行進は普段見ることが出来ない、迫力ある行列です。



※にいがた観光ナビより

《白根大凧合戦》

開催地：新潟市南区中ノ口川堤防

開催日：毎年6月上旬

行事内容：お祭り広場や子ども大凧合戦、パレードや展覧会、前夜祭の花火

行事詳細：白根大凧合戦の始まりは、約300年前、江戸中期、白根町側が堤防工事(ていぼうこうじ)の完成祝いに凧を揚げたところ、対岸に落ち、この報復として西白根側が、凧を叩きつけたことが由来と伝えられています。各団体に、絵柄、揚げ方や掛け方に特徴があります。双方の凧を絡めて、落ちてから引き合い、相手の凧網を切ったほうが勝ちとなります。祭期間中の通算成績で順位が決まります。まつり期間中以外にも「しろね大凧と歴史の館」では実際に凧を作り、凧洞実験室では凧を揚げるができます。ギネス記録にのるような、大凧を勢いよく揚げて引っぱり合うさまは一見の価値あります。



※にいがた観光ナビより

《沼垂まつり》

開催地:新潟市中央区沼垂白山神社

開催日:毎年8月15日・16日

行事内容:灯籠押し、子ども灯籠押し、神輿渡御

行事詳細:沼垂白山神社の例大祭として始まった沼垂まつりは、少なくとも200年以上の歴史があると言われてい
ます。そして昭和40年代に『沼垂まつり』という現在の名称へと変更し地域の祭として根ざしました。各町内
で額灯籠灯籠を献上するという意味から献額灯籠(けんがくとうろう)とも呼ぶそうです。担ぎ手たちは神
輿と迎え灯籠、送り灯籠と呼ばれる灯籠を担ぎ、昼は町内を練り歩きます。大きな献額灯籠を沼垂の
人たちがぶつけ合い、押し合うさまをみて、観客の人たちもとても盛り上がります。



※新潟観光コンベンション協会

《蒲原まつり》

開催地:新潟市中央区蒲原神社

開催日:毎年6月末~7月初旬

行事内容:お託宣

行事詳細:1690年に現在の地に社殿を構えたとされています。鎌倉時代初期の武士・畠山六郎重宗が合祀され
ていることから「六郎さま」とも呼ばれています。五穀豊穡を願って周辺の村々の信仰を集めています。7
月1日の晩にその年の作柄を占う「お託宣」という神事が行われます。新潟県でも露店が多く立ち並ぶ
祭として有名で、1キロにわたり700店もの露店が出店します。先の説明の通り沢山の昔懐かしいお祭り
の露店が並ぶことで、期間中は子供から大人まで多くの人でにぎわい、人がすれ違うことが大変なくらい
です。



※にいがた観光ナビより

《まき夏まつり》

開催地:新潟市西蒲区巻地区

開催日:毎年6月

行事内容:民謡流し、神輿渡御、やかた竿燈、山車パレード、花火大会

行事詳細:6月に開催される新潟市内では一番早い夏祭。西蒲区の祭礼儀式に合わせて行われます。「やかたおけさ」「巻甚句」を踊る民謡流し、神輿渡御、山車、花火大会などが繰り広げられ、「やかた竿燈」がまつりを締めくくります。



※巻観光協会より

《白山神社夏まつり》

開催地:新潟市中央区白山神社

開催日:毎年7月12日~18日

行事内容:神輿渡御

行事詳細:新潟市中央区一番堀通一番町に鎮座し、新潟町の総鎮守として古くから人々に親しまれ、拝殿に掲げられる「大船絵馬」は新潟湊の御城米積み込みの風景を描いたものであり、新潟県指定有形民俗文化財となっている。白山神社は新潟の中心にあることで、四季を通じて、桜や季節の木々を見ることができ、普段から参拝客が多く訪れています。祭の期間はその境内におまつりの露店が立ち並び、さらに多くの人でにぎわいます。



※にいがた観光ナビより

《にいつ夏まつり》

開催地:新潟市秋葉区

開催日:毎年8月

行事内容:民謡流し、屋台巡行

行事詳細:秋葉区新津地区の代表的な民謡「新津松坂」を町の中で歌い踊る「新津松坂流し」、「屋台まつり」があり、また露店も多く立ち並ぶため、沢山の観客が訪れます。屋台祭りでは、新津の街中で、7台の豪華絢爛な屋台が勢いよく走り回り、時には激しくぶつかりあう迫力あるさまが見に来た観客を沸かせます。



※にいがた観光ナビより

【新潟県内の祭】

《水原まつり》

開催地:新潟県阿賀野市外城町

開催日:毎年8月下旬 2日間

行事内容:神楽と獅子の共舞、民謡流し大会、ザ・灯籠衆舞、花火大会

行事詳細:初日は神楽と獅子が日本刀をもって舞踊ります。ザ・灯籠衆舞では、勇壮な灯籠のぶつけ合いがあり、各団体の灯籠をぶつけて押し合います。二日目は瓢湖大花火大会で夏の夜空を煌びやかな花火が彩ります。水原のシンボルでもある瓢湖のライトアップされた噴水は七色に変化し、幻想的な空間を演出します。



※にいがた観光ナビより

《城下町新発田まつり》

開催地:新発田市

開催日:毎年8月27~29日

行事内容:初日、奉納台輪、民謡流し、新発田よさこい、和太鼓

2日目、まつりパレード

3日目、帰り台輪

行事詳細:新発田総鎮守である諏訪神社の例大祭です。祭の見どころでもある、しばた台輪は絢爛豪華な山車に、大人や、子供が乗り込み、お雑子とともに町を回ります。初日に出た台輪は町を巡り、神輿とともに諏訪神社の境内に飾られます。初日は民謡ながし、新発田よさこいと和太鼓が饗宴し、二日目は地域の子供たちが、しばたっ子の祭典としてお祭りに賑わいを演出します。三日間台輪と神輿が町を巡り、3日目に神社に戻っていきます。



※にいがた観光ナビより

《長岡まつり》

開催地:新潟県長岡市

開催日:毎年8月1日~3日

行事内容:8月1日長岡まつり前夜祭

8月2日パレード、ステージイベント、木やり、まとい、梯子乗り、大花火大会

8月3日パレード、ステージイベント、大花火大会

行事詳細:初日前夜祭では、ハーレー前ぶれ走行では長岡フェスティバルレディを先頭にハーレーが通りを走行します。また、大民謡流しでは5,000人が一つになり通りを彩ります。その後越後長岡懸霊神輿渡御・お雑子・悠久太鼓へと続き会場は熱気に包まれます。2日目は長岡消防音楽隊に始まり、大手通りのステージイベント、アオーレ長岡のステージイベントが行われます。2日目、3日目の夜になると新潟が世界に誇る大花火大会が始まります。日米両国の戦争犠牲者の懸霊と世界平和への願いを込めて懸霊の花火で幕を開ける長岡大花火大会は毎年100万人規模の人出でにぎわい、目玉であるフェニックス花火は平原綾香さんの曲「Jupiter」がテーマ曲となっており、見る人に感動を与えます。2キロ以上の幅で打ち上げられるフェニックス花火は、「超ワールドワイドビッグスクリーン」とも呼ばれます。



※にいがた観光ナビ、長岡まつり協議会より

《おぢやまつり》

開催地:新潟県小千谷市

開催日:毎年8月下旬

行事内容:民謡流し、子どもみこし、仮装盆踊り、万灯パレード、花火大会

行事詳細:初日、大民謡流し、2日目はからくり万灯パレードと花火大会、3日目は2日目同様からくり万灯パレードと盆踊り大会が行われます。からくり万灯とは動く仕掛けを持つ万灯です。町内会や市民団体が夏の間に制作した「からくり万灯」がお雛子にのって街中を巡ります。巨大な「万灯みこし」は若者たちを中心に大勢の担ぎ手が掛け声を響かせ街を練り歩きます。2日目の夜には大花火大会が開催され、ここでしか見ることのできない2尺玉5発同時打ち上げや幅600mのスターマインを見ることができます。最終日に行われる市民総参加盆踊りは夏の様子をそこに見ることが出来ます。



※小千谷観光協会より

《上越まつり》

開催地:新潟県上越市

開催日:高田祇園祭、毎年7月23日～26日

直江津祇園祭、毎年7月26日～29日

行事内容:前夜祭、神輿渡御、大民謡流し、神輿川下り、花火大会

行事詳細:神輿が高田から直江津へ川下りによって移動します。これにより二つの祇園祭が行われ、この二つの祇園祭を合わせて上越まつりと呼びます。高田から始まる上越まつりは、23日前夜祭として、祇園祭みこし奉迎や大民謡流しで幕を開けます。24日、25日には各町内におまつり広場が開かれ、神輿が町を巡ります。26日になると、神輿を船に乗せ直江津へ移動します。同日直江津祇園祭が開催され、直江津では大花火大会が行われます。27日は高田より来た神輿が町を巡り、屋台巡業も行われます。28日は直江津大民謡流し、御みこし御本殿還御が行われます。最終日29日も屋台巡業があり、五穀豊穰を願い、八坂神社にお饗米奉納が行われ幕をとじます。



※にいがた観光ナビより

《天王祭・牛尾神社宵宮奉納薪能》

開催地:佐渡市新穂

開催日:毎年6月

行事内容:薪能、鬼太鼓

行事詳細:牛尾神社の祭礼で、宵宮では能舞台において薪能が奉納され、引続き潟上と吾潟の鬼太鼓の奉納が行われます。また例祭神事式として巫女舞、大黒舞ほかが奉納され、神幸祭では御神輿渡御、潟上と吾潟の鬼太鼓が奉納されます。鬼太鼓は佐渡に古くから伝わる芸能で、悪魔を払い豊年を祈る神事です。佐渡島内には約120地区で鬼太鼓が伝えられていると言われており、いくつかの流派に分けられます。



※にいがた観光ナビより

《謙信公祭》

開催地:新潟県上越市 春日山城跡・春日山城史跡広場ほか

開催日:8月下旬

行事内容:前夜祭、出陣行列、川中島合戦の再現

行事詳細:前夜祭では提灯行列が行われ、謙信公祭初日は謙信公みこし巡行があり、大きな神輿が街中を巡業します。狼煙上げは当時の様子を再現し、砦、城跡より一斉に狼煙が上げられます。また、2日目には出陣行列があり、出陣行列は、上杉・武田両軍の武将や兵にふんして浴道を練り歩くもので、市内外から約500人が参加する大行列です。かがり火の中行われる「川中島合戦の再現」は、戦国絵巻さながらの迫力と臨場感で見る人を魅了します。



※にいがた観光ナビより

《浅原神社秋季例大祭奉納大煙火(片貝まつり)》

開催地:新潟県小千谷市片貝町

開催日:9月9日、10日

行事内容:伝統まつり屋台、筒引き、玉送り、花火打ち上げ

行事詳細:四百年の歴史がある「片貝まつり」は、三尺玉笈祥の地として知られる片貝町行われます。「筒引き」「玉送り」等の伝統行事や世界最大とされる四尺玉の打ち上げが見どころです。片貝まつりの花火は浅原神社へ奉納する花火で、祭の間2日間で15,000発打ち上げられ、世界最大の四尺玉は両日午後10時に打ち上げられ、それぞれ名前がつけられています。9日は昇天銀竜黄金すだれ小割浮模様、10日は昇天銀竜黄金千輪二段咲き。また、10日は日本では唯一の真昼の三尺玉も見ものです。



※にいがた観光ナビより

《ほだれ祭》

開催地:新潟県長岡市来伝617(下伝来)

開催日:3月第2日曜日

行事内容:大しめ縄張りをはじめ、ほだれ大神移降、ほだれ大神巡覧等の行事が行われます。

行事詳細:巨大なしめ縄を新潟県の重要文化財である杉に締め始まるほだれ祭。道祖神のひとつである男根形のほだれ様。五穀豊穡と人の実りを守る神様として、古くから信仰されてきました。ほだれ祭では高さ2.2m、重さ600キロのご神体のご移降します。この地に嫁いできた初嫁が男根がたの神輿にまたがり、村の男性たちが担いで村内を練り歩き、五穀豊穡と子宝・安産を願います。小さな村の祭でしたが、現在では県内外から観光客等が訪れる祭になっています。



※にいがた観光ナビ、栃尾観光協会より

《むこ投げすみ塗り》

開催地：新潟県十日町市松之山湯本 薬師堂

開催日：7月7日

行事内容：むこ投げ(薬師堂の境内から初婚を投げる。)

すみ塗り(賽ノ神の墨と雪を混ぜて塗りあう。)

行事詳細：●むこ投げ

前年に結婚した初婚を、松之山温泉にある薬師堂から投げ落とすという行事。高さ5メートル程ある境内から、結婚の祝福と夫婦の絆が結ばれるように願掛けとして投げ落とす、としているが、略奪結婚の名残や、村の娘をとられた腹いせともいわれています。毎年7月末迄一般参加者も募集しています。

●すみ塗り

一年の初めに無病息災・家業繁盛を願い、「賽の神」という神事の灰と雪を混ぜて、お互いの顔に墨を塗りあう行事。一年の初めに墨で顔を真っ黒にするさまを見て、参加するのも楽しめます。



※にいがた観光ナビより